



小雨の降る中、講師の説明を熱心に聞く参加者

## かあちゃんパワーさく裂

～かあちゃんオリンピック～

9月20日(金)、総合体育館で登別市婦人団体連絡協議会主催の『第37回かあちゃんオリンピック』が開かれ、鷺別婦人会など



13団体・138人が参加しました。

この催しでは毎年ユニークな競技が行われますが、今年は、来賓の男性を、参加者がスカートやドレス、口紅などで化粧し、美人に変身させる『ミス登婦連』が参加者の大きな笑いを誘っていました。

このほか、『カンつり競争』や『孫の子守り』などバラエティーに富んだ13競技が行われ、スポーツの秋にさわやかな汗を流していました。

## かわいいフクロウをつくりました

～フクロウづくり体験学習～

9月28日(土)、郷土資料館主催の体験学習『フクロウづくり』が同館隣の文化伝承館で開かれました。

今年で3回目となるこの体験学習は、トウモロコシの皮などを使って、森の番人と呼ばれ、家内安全のお守りにもなるというフクロウを作るものです。

親子など34人の参加者は、郷土資料館ボランティア『SLG』の指導を受けながら、楽しそうな表情でフクロウづくりに挑戦。難しいところはお母さんに手伝ってもらいながら、出来上がった可愛らしいフクロウを満足そうに見せ合っていました。



## 森はとってもリサイクル上手

～親子ふれあいエコツアー～

9月29日(日)、ふおれすと鉱山とその周辺で、市と市教育委員会の主催による『親子ふれあいエコツアー』が行われ、親子21人が参加しました。

この催しは、森の中でゲームや工作などを楽しみながら、森は上手なりサイクルの仕組みをもっているということを体験的に学んでもらおうと、札幌市から丸山環境教育事務所の代表・丸山博子さんを講師に迎えて行われたものです。

あいにく小雨が降っていましたが、森の中で落ち葉の下にミミズやカニ虫などを見つけた参加者は、丸山さんから「こういう虫などが葉っぱをご飯にして食べてくれるから、木の葉が全部落ちてても、森は葉っぱだらけにならないんですね」と森の循環の仕組みを説明され、納得した表情に。

そのほか、森で生活する動物のカルタ作りや、森で拾った小枝や落ち葉、木の実などを使った工作などを体験し、自然の仕組みへの理解を深めました。



落ち葉の下にいる虫などを観察

## お魚たくさんかかったよ

～富浦海岸の清掃と地引網体験～



9月21日(土)、『富浦海岸の清掃と地引網体験』が富浦海岸で開かれました。

この事業は、登別市ふるさと広場実行委員会が、子どもたちにふるさとの海に親しみ、伝統的な漁法・地引網を体験してもらおうと企画したもので、親子など約120人が参加しました。

秋晴れの下、海岸のごみ拾いに汗を流した参加者は、早速、地引網に挑戦。登別漁業協同組合の協力であらかじめ張られた地引網を、掛け声を合わせながら引きました。網にかかったチカやウグイなど勢いよく飛び跳ねる魚に、子どもたちから歓声が上がっていました。